

福永 章子

D：福島県会津東山温泉コース

前略 帰阪後すぐに提出すべきところ、大変遅くなって、申し訳ありません。

現地を訪問して、一番収穫だったのはやはり、新聞やテレビ・ラジオでは報じられない、地元の方々のお声を拝聴できたことです。東京電力の補償を受けている人と受けていない人とのあつれきが生じていることや、福島県の女性が結婚するためには出身地を隠さなければいけない程、まったく根拠のない風評被害がひどいことを知ることができました。それと同時に、同じ市民・国民でありながら、お互いを憎み合うことになってしまった原因となった原発事故の罪の大きさを感じました。

また、伊丹空港からリムジンバスで難波に帰ってきたのですが、ネオン街のまぶしい光が虚しく目に映りました。調理や暖房といった、生活に不可欠な用途でないことに電力を浪費する社会のあり方を考え直さなければいけない、と思いました。

現地の校友会や生産者の方々と同じ位に印象に残っているのは、バスガイドさんのお話です。時折、声をつまらせながら熱く当時の様子を語ってくださるのをお聞きして、観光業界もどれほど痛手を受けて苦しんでいるのかがわかりました。次に福島を訪れる機会があればまた、同じガイドさんに添乗をお願いしたいです。

旅の日程ですが、東北の応援が目的だったので、一日目の夕方の飯盛山は行かなくて良かったのではないのでしょうか。暗くてほとんど周りが見えない所を訪問して、そのために勉強会の時間を削るのは本末転倒です。地元のお母さん方の子育てに対する想いなど、もっと被災された方のお話をお聞きすることに重点を置いて欲しかったです。

最後になりましたが、今回のツアーに関わった全ての方々に御礼を申し上げます。無力な人間ですが、今後も東北を支援する活動に参加していきたいと思えます。

企画があれば、ご案内頂けると幸いです。よろしく願致します。

草々